

国語 第3学年 想どうしたことをつたえ合おう 自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校国語の授業づくりを手伝う役です。以下の指導案を、私の学級に合わせて直してください。最初に学級の人数と学習の組み方、関連する既習事項、読む・書く・話す際の困難や必要な配慮、使える授業時間と研究授業の位置、ICTと紙の道具について、一項目ずつ質問し、答えを待ってから次へ進んでください。条件がそろったら、豆太の行動や気持ちを叙述から捉え、場面によって異なる姿を説明する。臆病か勇敢かという二択だけで決めず、何をきっかけにどんな行動をしたかを確かめる。このねらいを保ち、目標・評価規準・計画・本時の活動の対応を確かめて全文を書き直してください。本文や台詞、挿絵、教科書固有の問題文は転載しないでください。時数や人数、時間配分は私の回答か出典があるものだけを使ってください。児童の反応を実測した事実として書かず、予想として示してください。三重の指導案の見出しの順を保ち、教師向けの文章に内部IDなどを出さないでください。変更した所と、その根拠となった私の回答を最後に示してください。直す対象の学習指導案は、この後に続けて書きます。

————ここから直す対象の学習指導案————

第3学年 国語科学習指導案

1 単元名 「想どうしたことをつたえ合おう」 教材名 「モチモチの木」

2 単元の目標

人物の気持ちや性格を表す語句を確かめ、自分の説明の中で使える。豆太の行動や気持ちを叙述から捉え、いつもの様子と比べて考えを説明できる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①人物の気持ちや性格を表す語句を確かめ、自分の説明の中で使っている。〔知識及び技能〕(1)オ)

〔思考・判断・表現〕①「読むこと」において、豆太の行動や気持ちを叙述から捉え、いつもの様子と比べて考えを説明している。〔C(1)イ〕

〔主体的に学習に取り組む態度〕①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

豆太の行動や気持ちを叙述から捉え、場面によって異なる姿を説明する。臆病か勇敢かという二択だけで決めず、何をきっかけにどんな行動をしたかを確かめる。学習指導要領のC(1)イを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(1)オを、言語活動の中で確かめる。

(2) 児童について（学級の実態を書く）

(3) 指導について

日常の行動と大きな出来事での行動を並べ、行動の理由になる叙述を探す。想像した気持ちは事実の行動と区別して書く。おおむね満足できる状況は、豆太の行動や気持ちを叙述から捉え、いつもの様子と比べて考えを説明しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全9時間）

第1次 第1時：○全文を読み、豆太への最初の印象を記録する。 評価：学習状況を見て支援する。

第2次 第2～3時：○日常の豆太の行動を読み、性格や気持ちを考える。 評価：知①（語句や内容の整理）

第2次 第4～5時：○大きな出来事での行動を読み、きっかけとなる叙述を確かめる。 評価：学習状況を見て支援する。

第2次 第6時（本時）：○いつもの行動と比べ、同じ点と違う点から豆太について考える。 評価：思①（発言・学習記録）

第2次 第7時：○人物メモを基に、叙述を根拠にした説明文を書く。 評価：学習状況を見て支援する。

第2次 第8時：○考えを交流し、違う根拠や気持ちの表し方を確かめる。 評価：学習状況を見て支援する。

第3次 第9時：○物語を読み直し、豆太への見方を振り返る。 評価：態①（学習前後の記録・振り返り）

6 本時の指導（6／9）

（1）本時の目標

豆太の行動や気持ちを叙述から捉え、いつもの様子と比べて考えを説明できる。

（2）学習過程

【導入】

学習活動：本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。

○「豆太のどんなところが、この行動に表れていますか。いつもの様子と比べると、何が同じで何が違いますか」

【めあて】豆太の行動や気持ちを叙述から捉え、場面によって異なる姿を説明する。

予想される児童の反応：・いつもと違う行動をしている。

指導上の留意点：本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。

【展開】

学習活動：○「豆太のどんなところが、この行動に表れていますか。いつもの様子と比べると、何が同じで何が違いますか」

自分で言葉や本文の箇所を確認、理由を添えて考えを書く。ノートを示して説明し、聞き手は確かめたところと、まだ確かめたいところを返す。全体では考えが分かれた箇所を取り上げ、何を根拠にしたかを比べる。

予想される児童の反応：・いつもと違う行動をしている。

・急に性格が全て変わったとは言えない。

・相手を思う気持ちを行動から考えたい。

指導上の留意点：日常の行動と大きな出来事での行動を並べ、行動の理由になる叙述を探す。想像した気持ちは事実の行動と区別して書く。

想定する難しさ：性格が全面的に変わったと単純化する。本文にない台詞や気持ちを書き足す。

児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。

評価：思① 豆太の行動や気持ちを叙述から捉え、いつもの様子と比べて考えを説明している。（発言と学習記録）

【まとめ】

学習活動：【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。

学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。

予想される児童の反応：・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。

・相手を思う気持ちを行動から考えたい。

指導上の留意点：まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って紹介や説明の文章を直す。

評価：態①（学習前後の記録と、見直した理由）

（3）板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「豆太のどんなところが、この行動に表れていますか。いつもの様子と比べると、何が同じで何が違いますか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

